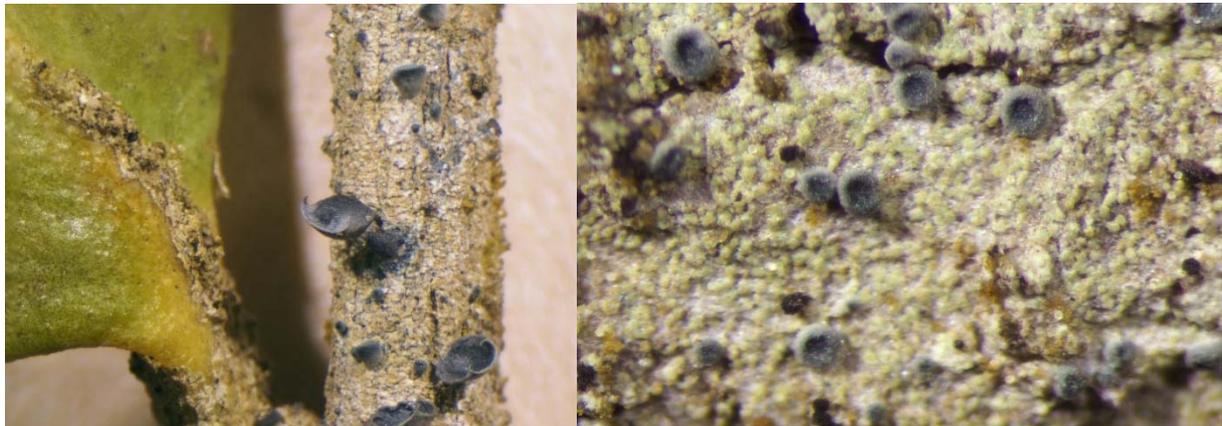


千葉県で見つかった地衣類の新種

プセウドカロパディア チバエンシス (*Pseudocalopadia chibaensis*)

・・・ 原田 浩・坂田 歩美/ 2020.04.



2017年12月、日本地衣学会の学術誌ライケノロジー (*Lichenology*) に、千葉県産の地衣類の新種を発表しました。学名はプセウドカロパディア チバエンシス (*Pseudocalopadia chibaensis*) といいます。和名はまだありません。

この地衣類は、黒っぽい掌か、しゃもじのような、1 mm くらいのキャンピリディアという器官をつける (写真左) のが特徴です。東庄県民の森などでツツジの小枝に着生するのが見つかりましたが、胞子をつくる子器という器官が見つからなかったため、どの属なのかわかりませんでした。そのころ、当館の重点研究として東京大学千葉演習林で地衣類の調査をしていたところ、モミの小枝に本種の特徴的なキャンピリディアとともに、子器 (写真右) をつける個体を発見しました。その特徴から、プセウドカロパディア属であることが分かりました。

この属は、それまでに南米からプセウドカロパディア ミラ (*P. mira*) という種、1種が知られ、アジアでは沖縄から不確実な記録があるのみでした。プセウドカロパディア ミラ (*P. mira*) とは地衣体の形状などが違うことから、新種であることが分かり、千葉で発見されたことに因み、「チバエンシス (*chibaensis*)」という種小名を採用することにしました。

掲載論文： Harada H. & Sakata A./ 2017/ *Pseudocalopadia chibaensis* (lichenized Ascomycota, Pilocarpaceae), a new corticolous species of campylidiate lichen from Japan./ *Lichenology* 16(2): 103-115.

調査研究事業： 地域研究課題「房総の地衣類誌」・重点研究課題「房総丘陵の自然—過去、現在、未来—：植物学」